

2022年 3月期 第1四半期 決算説明会 資料

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



株式会社 浅沼組
証券コード：1852

この資料には、弊社の業績予測並びに将来の見通しに関する記述がございます。
これらの記述は、現在入手可能な情報及び将来に影響を与える不確実な要因に係る仮定に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく記載と異なる結果になる可能性があります。

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



| ページ | 項目 |
|------|------------------------------|
| P 3 | 2022年3月期 第1四半期の実績 |
| P 4 | 受注の現況 |
| P 5 | 中期3ヵ年計画の施策 |
| P 6 | ASEAN地域におけるリニューアール事業への取り組み強化 |
| P 7 | 独自技術である「Ai-MAP SYSTEM」の高度化 |
| P 8 | エコフレンドリーASANUMA21の推進 |
| P 9 | 「ReQuality」の一環でWELL認証の取得 |
| P 10 | 政策保有株式の削減 |
| P 11 | コーポレート・ガバナンス その他 |
| P 12 | 新聞記事 |

2022年3月期 連結 第1四半期の実績



(単位：億円)

| 主な経営指標 | 2021/3期 | | | 2022/3期 | | |
|----------------------|---------|-----------------|-------|---------|-----------------|-------|
| | Q1実績 | 実績 | 進捗率 | Q1実績 | 計画 | 進捗率 |
| 受注高 | 241 | 1,206 | 19.9% | 287 | 1,321 | 21.7% |
| 完成工事高 | 275 | 1,378 | 19.9% | 291 | 1,390 | 21.0% |
| 完成工事 粗利益 | 21.8 | 135.8 | 16.0% | 23.1 | 136.4 | 17.0% |
| 完成工事 粗利益率 | 7.9% | 9.9% | — | 7.9% | 9.8% | — |
| 営業利益 | 2.6 | 52.9 | 4.9% | 2.1 | 53.4 | 3.9% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 1.6 | 41.4 | 4.0% | 1.3 | 41.7 | 3.2% |
| 配当 (配当性向) | — | 257円 (50.0%) | — | — | 260円 (50.2%) | — |

個別受注の現況



(単位：百万円)

| | | | 2021/3期 1Q | | 2022/3期 1Q | | |
|--------------|-----|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|
| | | | 実績 | 構成比 | 実績 | 構成比 | 前期比 |
| 建 土 官 民 別 | 建築 | 官 庁 | 5,998 | 27.4% | 4,777 | 18.9% | △1,220 |
| | | 民 間 | 15,925 | 72.6% | 20,492 | 81.1% | 4,567 |
| | | | 21,923 | 100.0% | 25,270 | 100.0% | 3,346 |
| | 土木 | 官 庁 | 693 | 39.9% | 2,349 | 69.5% | 1,655 |
| | | 民 間 | 1,045 | 60.1% | 1,030 | 30.5% | △15 |
| | | | 1,739 | 100.0% | 3,379 | 100.0% | 1,640 |
| | 官 庁 | | 6,692 | 28.3% | 7,127 | 24.9% | 434 |
| 民 間 | | 16,970 | 71.7% | 21,523 | 75.1% | 4,552 | |
| 合 計 | | | 23,663 | 100.0% | 28,650 | 100.0% | 4,987 |
| 用途別 | 建築 | 工場・倉庫 | 1,602 | 7.3% | 10,609 | 42.0% | 9,006 |
| | | 住 宅 | 3,422 | 15.6% | 5,197 | 20.6% | 1,775 |
| | | 教育研究 | 3,045 | 13.9% | 3,888 | 15.4% | 842 |
| | | その他 | 8,429 | 38.5% | 611 | 2.4% | △7,815 |
| | | リニューアル | 5,422 | 24.7% | 4,962 | 19.6% | △460 |
| | | | 21,923 | 100.0% | 25,270 | 100.0% | 3,346 |
| | 土木 | 治山治水 | 9 | 0.5% | 521 | 15.4% | 512 |
| | | 鉄 道 | 173 | 10.0% | 611 | 18.1% | 437 |
| | | 道 路 | 333 | 19.2% | 583 | 17.3% | 249 |
| | | その他 | 989 | 56.9% | 987 | 29.2% | 0 |
| | | リニューアル | 232 | 13.4% | 674 | 20.0% | 441 |
| | | 1,739 | 100.0% | 3,379 | 100.0% | 1,640 | |
| 合 計 | | | 23,663 | | 28,650 | | 4,987 |

参考

2021年6月末時点の案件金額

個別通期計画

要受注高

案件金額

1,300億円

1,013億円

4,802億円

— 基本方針 — 浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ 「変化に挑戦」

| | |
|--|---|
| <h3>外部環境変化への挑戦</h3> | <p>★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により堅調に推移する国内維持・修繕事業投資</p> |
| | <p>1. 積算・施工部門によるコストデータの蓄積・活用の拡充等 2. ASEAN地域におけるリニューアル事業への取り組み強化継続等 3. 『ReQuality』リニューアルブランド戦略の推進等</p> |
| | <p>★ 建設分野における生産労働人口の減少</p> |
| | <p>1. 独自技術である「Ai-MAP SYSTEM」の高度化等 2. 女性社員・外国人社員の採用強化等 3. 建設キャリアアップシステムの推進拡充等</p> |
| | <p>★ 非財務経営活動(E S G ・ S D G s 等)による企業評価向上の機運</p> |
| <p>1. 「E」：エコフレンドリーASANUMA21の推進等 2. 「S」：『ReQuality』の一環でWELL認証の取得等 3. 「G」：政策保有株式の削減継続等</p> | |

ASEAN地域における リニューアル事業への取り組み強化



タイにおける老朽化高速道路・橋梁のメンテナンス事業への取り組み

現地法人設立

| | | |
|---|---------|------------------------------------|
| ① | 名 称 | Thai Asanuma Holdings Co.,Ltd. |
| | 事 業 内 容 | 持株会社 |
| | 設 立 | 2021年 6 月 |
| ② | 名 称 | Thai Asanuma Construction Co.,Ltd. |
| | 事 業 内 容 | リニューアル事業 |
| | 設 立 | 2021年 7 月 |

設立の目的

- ・タイにて炭素繊維シートを使用し、老朽化した高速道路や橋梁のメンテナンス事業を開始
- ・近年タイにおける公共インフラ投資は著しく成長し、それに伴うメンテナンスの需要が増加

目標

**2023年度にASEANのリニューアル事業の営業利益を
連結営業利益の10%に**

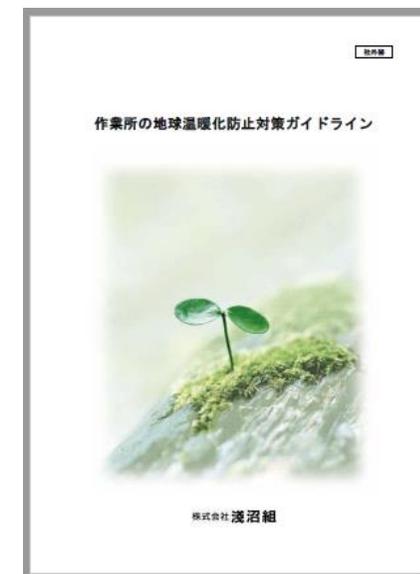
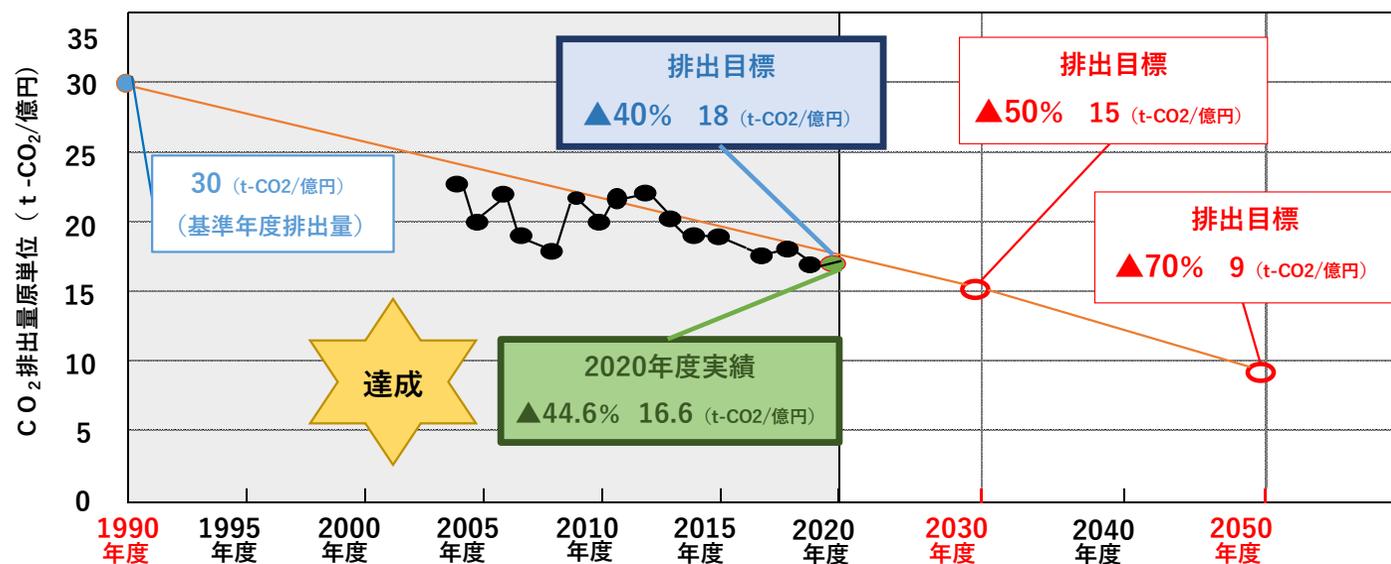
| 内 容 | 特 徴 | 効 果 |
|------------------------------------|--|-------|
| 技能動作解析 | GPSカメラやセンサを熟練技術者に取り付け、動画撮影により、動作・行動・音声をデータ化し分析 | 技能伝承 |
| インフラ通信管理 | 通信システムの活用による遠隔地から現場の生産管理を実施 | 生産性向上 |
| (新機能) 情報共有管理 | 外部とのシステム接続による施主や監督官庁等との情報共有が可能 | 生産性向上 |
| 事業化への取り組み | | |
| 現在事業化へ向けた地方の建設会社からのニーズ調査と事業計画策定に着手 | | |

長期CO₂削減目標

「施工高1億円当たりのCO₂排出量を1990年度比で

2030年度までに50%、2050年度までに70%削減」

CO₂削減の推移



作業所の手引書

- ・ 政策保有株式としての上場株式残高 2021年3月末 55.6億円
- ・ 上場株式の保有適否判断基準
配当と工事粗利益の便益が「株主資本コスト」を下回る場合に縮減
売却実績 2018～2020年度 合計30.9億円
連結純資産比率 2018年3月期末 23.4% ⇒ 2021年3月期末 13.3%へ縮減
- ・ 2021年3月末保有株式 便益 20.1% > 株主資本コスト 7.95%

目標

2022年3月末までに政策保有株式の残高を連結純資産の10%未満に

| | |
|-----------|---|
| 取締役会の構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・取締役会人数 9名 ・社外取締役の割合 1 / 3 ・うち女性社外取締役 1名 |
| 監査役会の構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・監査役会人数 4名 ・社外監査役の割合 3 / 4 ・うち女性社外監査役 1名 |
| 株式報酬制度 | <ul style="list-style-type: none"> ・譲渡制限付株式報酬制度の導入 |
| プライム市場を選択 | <ul style="list-style-type: none"> ・新市場区分における「プライム市場」の上場維持基準への適合確認 ・8月5日の取締役会にて、「プライム市場」の選択を決議 ・コーポレートガバナンス・コード改訂に伴う対応推進 |

- 2021/4/3 エコフレンドリーASANUMA21
- 2021/4/7 循環型プロジェクト「ReQuality」始動
- 2021/5/21 タイに新会社設立

浅沼組、CO₂を7割削減へ

浅沼組は2050年度までに施工高1億円当たりの二酸化炭素(CO₂)排出量を1990年度比で7割削減する目標を掲げた中期経営計画を策定した。20年度までに同4割削減を達成しており、政府の温暖化ガス排出を50年までに実質ゼロを目指す目標に向け重点的に取り組む。建設工事で生じる汚泥やコンクリートからの再生利用や生態系の保護などの方針も採り入れた。

2021/4/3 日本経済新聞社

浅沼組は、循環型プロジェクト「GOOD CYCLE PROJECT」(グッドサイクルプロジェクト)を1日から始めた。クラウドファンディング(CF)、リニューアル事業、名古屋支店リニューアル、オウンドメディア開設の4つのアクションを展開する。

同社は、建設事業における環境への責任を真摯(しんし)に受け止め、人間にも地球にも良い循環をつくるため、リニューアル事業「コンセプトReQuality」を立ち上げている。このコンセプトを「グッドサイクルプロジェクト」の4つのアクションを通じて社会に発信する。

クラウドファンディングでは、名古屋支店リニューアルで発生し

CFや名古屋支店改修を展開

リニューアル後の名古屋支店外観イメージ

た建材の端材を活用した杉の香りのインテリア「ヨシノチップス」を応援購入できる。目標金額の達成に関わらず、6月29日までに支払いを完了した時点で応援購入が成立する。

リニューアル事業では、長年培ってきた技術・ノウハウを生かし、調査・診断から企画・設計、施工、維持管理までトータルでサポートするサービスで、自然素材の活用



浅沼組

や、建設残土を活用した版築の技術を応用したブロックの開発、空間ヘルスケアの知見を活用した提案などを盛り込む。

名古屋支店は、建築家の川島龍久氏と同社設計部の共同設計により改修中で、既存躯体・空間の有効活用の可能性を示すとともに、版築ブロックや土壁、吉野杉を活用したファサードなどで構成するオフィスビルにする。空間ヘルスケアなどの知見なども活用する考えで、10月に竣工する。

オウンドメディアの開設では、プロジェクトメンバーがグッドサイクルの実践者を訪ね、より良い循環について考える連載をメディアア上に掲載する。組織や業種の様々な人・業界と手を組み、人間にも地球にも良い循環を探索する。編集長には伊藤ガビン京都精華大学メディア表現学部教授が就く。

2021/4/7 日刊建設通信新聞社

タイに新会社設立

炭素繊維で構造物メンテ

浅沼組は、タイに炭素繊維シートを用いて老朽化した高速道路や橋梁などのメンテナンス事業を行う新会社を設立する。20日に開いた取締役会で決定した。新会社は持ち株会社の「タイアサヌマホールディングス」と、事業会社の「タイアサヌマコンストラクション」の2社、いずれも6月下旬にも設立する。

両社の社長には渡中恒氏

が就任する。持ち株会社の資本金は400万円(約1400万円)。出資比率は浅沼組49%、SBCS社17%、SMB Management Service社17%、SMSB社17%出資する。事業会社の資本金は500万円(約1750万円)で、浅沼組が49%、持ち株会社は51%出資する。新会社設立による連結業績への影響は軽微という。

2021/5/21 日刊建設通信新聞社



株式会社 浅沼組

2021年8月20日

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部

T e l 06-6585-5500 F a x 06-6585-5556